

学校経営 ビジョン	学校教育目標の実現に向け、「対話」を軸に「つながり」を大切に した教育活動 を推進します。 1 子どもたち一人一人が夢をもち、実現に向けてなかまとともに学びあう教育活動を推進します。(学び合う集団、保小連携、小中一貫教育) 2 家庭及び地域との連携・協働により、地域コミュニティの核としての学校づくりを推進します。(地域とともにある学校、コミュニティ・スクール、キャリア教育) 3 「チーム細野小」として、職員相互の資質向上と効率的な学校運営を推進します。(資質向上実行プラン、働き方改革、事務機能強化)
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	■重点目標 進んで学び子 →基礎・基本の定着と学力向上 ■手段 1 算数科指導方法工夫改善、ICT等の効果的な活用 2 図書館教育・読み聞かせの推進	1について ▶ 単元テスト到達率80以上→ほぼすべての学級 ○ 重点支援指定を授業力改善の好機とし、チーム管理職のつなぎの指導の充実を図り、学力向上の取組を推進している。 ○ 教師の言語量を精選し、学び合いの時間の充実を図っている。 ○ 下位層の単元末の学力定着対策や読解力や活用力を高めるレベルアップタイムを家庭学習ともリンクさせながら充実を図る必要がある。 2について ▶ 平均図書貸出数→116冊 ○ 学校図書館の貸出冊数は昨年度より大幅に増加しているため、今後は読書の質の向上にも努める必要がある。	3	3	○ ICTも活用し、下位層の単元末の学力定着対策や活用力を高める日常指導を家庭とも連携を図り進める必要がある。 ○ 単元テストは80以上であるので全国、みやざき学テも県平均を上回る状況。更なる指導方法の工夫が次年度も必要である。 ○ 平均図書貸出数116冊/年は、素晴らしい成果であり、家庭読書の充実にもつながるといい。
徳 育	■重点目標 思いやりのある子 →落ち着いた学校の雰囲気づくり →いじめは絶対に許さないという集団づくり ■手段 1 基本的な生活習慣の定着 2 特別の教科道徳の研究といじめ対応対策の充実	1について ▶ 立腰→84% ▶鉛筆持ち方→78% ○ 『ふれあい登校日』の中学生と合同の挨拶運動により、大きな挨拶や返事ができる児童が増えている。 ○ 授業中の立腰と鉛筆の持ち方の100%を目指し常時指導を徹底図る必要がある。 2について ▶ いじめ認知解消率→100% ○ 道徳の授業を中心に、課題を自分の問題として、とらえ考えさせる授業の充実が図られている。 ○ いじめ事案も数件発生したが、早期に組織的な対応を行い解消することができた。 ○ 人権擁護委員との連携を図った「人権教室」を全学年で実施することができた。次年度も継続して実施を図る必要がある。	3	3.2	○ 不登校ゼロ、いじめもへの早期対応、いじめの認知解消率100%は素晴らしいので、今後も継続してほしい。 ○ 立腰と箸・鉛筆の持ち方の指導は、家庭との連携し徹底を図る必要がある。 ○ ふれあい登校日の取組、中学生との校門で合同あいさつ運動は、非常に素晴らしいので、今後の登下校のあいさつの充実につなげるとよい。 ○ 人権擁護委員と連携した全校での人権教室の取組のように今後とも人権学習を充実してほしい。
体 育	■重点目標 たくましい子 →体力向上 ■手段 1 体力向上プランの工夫・改善 2 むし歯の治療率の向上	1について ▶ 握力Tスコア全学年50→53 ○ 全職員の指導で、全体的に運動能力の向上が図られている。特に重点項目の握力について、体育の授業だけでなく、日頃から能力を高める取組を行い、効果を上げている。 ○ 体力の2極化傾向への手立ても、個別に講じる必要がある。 2について ▶ むし歯治療率→73% ○ 治療の進まない家庭が固定化しているため、個別の働きかけを強化している。 ○ 治療率の伸びに対し保有率が横ばいであることを踏まえ、教職員・保護者へのフッ化物洗口導入への理解を図る必要がある。	3	3	○ 握力Tスコアが53と強化につながった、日常的な運動能力の向上の取組が素晴らしい。 ○ 「むし歯」治療率については、家庭の協力・努力が必要なので学校の方もサポート体制の工夫も必要である。 ○ 体力向上のための外遊びの推奨・手立ての工夫も必要である。
食 育	■重点目標 しっかり食べる子 →健康の保持・増進 ■手段 1 全校無欠席運動の推進 2 食への正しい理解と適切な食	1について ▶ 全校無欠席日2日 ○ 登校をしぶる児童が数名いるものの、長期の欠席者はない。 2について ▶ 朝食摂取率→84% ○ 栄養も考慮した朝食摂取率を高めていく必要がある。	2	2.7	○ 家庭との連携を密にしながら、朝食摂取率が84%から100%を目指し、早寝・早起き・朝ごはんが、各家庭に定着するよう引き続き指導をしてほしい。 ○ 全校無欠席の日が増えることを期待したい。
そ の 他	■重点目標 教職員の働きやすい環境づくり ■手段 1 職員のキャリアプランに基づく人材育成 2 教職員の働き方改革の推進	1について ○ 一人一人の状況を把握し、適切な指導助言に努める必要がある。 2について ▶ 月45時間以上の超過勤務→2人 ○ 月80時間を超過する職員はいない。特に、教頭・事務の業務については、業務見直しを行ったことで減少傾向にある。 ○ 月45時間以上の超過勤務者が数名いる。引き続き教職員の働き方改革として、業務改善及び意識改革に取り組む必要がある。	3	3.1	○ 全職員参画の下、開かれた校長室を中心に「未来に羽ばたく細野っ子」を「細野小ワンチーム」で育ててほしい。 ○ 職員一人一人連携して超過勤務をなるべく少なくなるように心がけてほしい。職員が心身ともに健康で教育活動を行うことが、子供も健やかな成長につながると期待する。

次年度の方向性について の校長所見	○ 本校の最重要課題である学力向上については、教職員一人一人の指導力向上と組織的な取組強化を図ることで、主体的・対話的で深い学びの実現をめざします。 ○ 德育・体育・食育に関する取組については、学校からの効果的な 双方向 の情報発信に努めることで、家庭教育・地域教育との連携強化をめざします。
----------------------	--